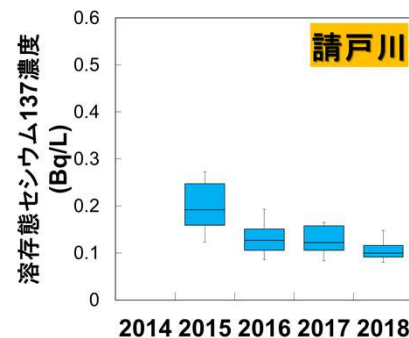
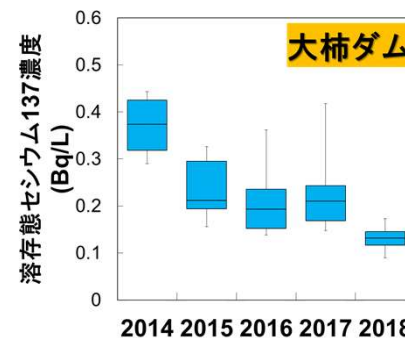
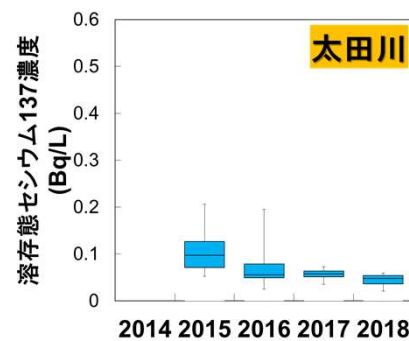
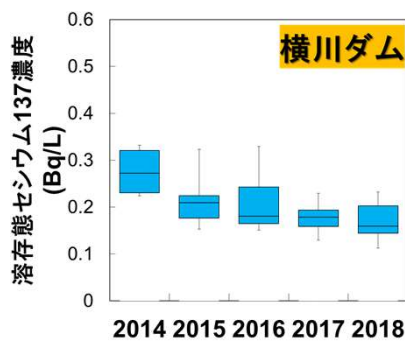
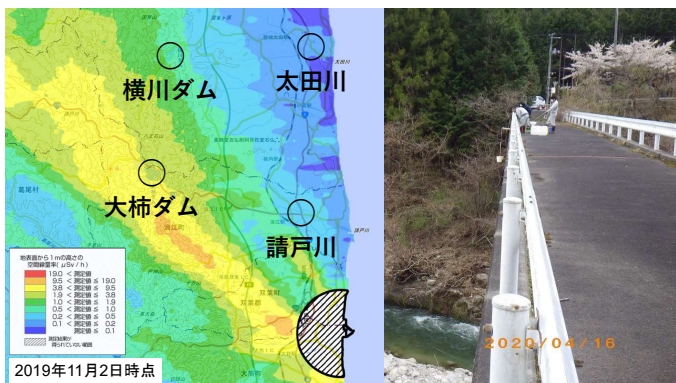


# 水圏における放射性セシウムの分布と動き

日本原子力研究開発機構 中西貴宏・舟木泰智・御園生敏治

- ◆ 水産物への放射性セシウムの移行挙動を評価するためには、水圏における放射性セシウムの分布と動きを把握することが、基礎的な情報として必要となる
- ◆ 河川・ダム湖水中のセシウム137濃度の時間変化と、海底土中のセシウム137濃度の空間分布を明らかにした

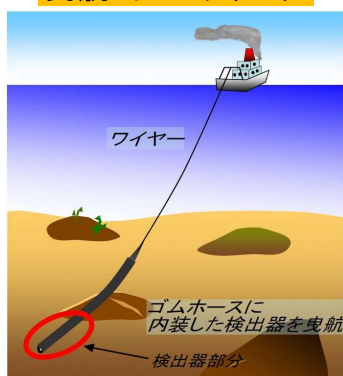
## 河川・ダム湖水中のセシウム137濃度の時間変化



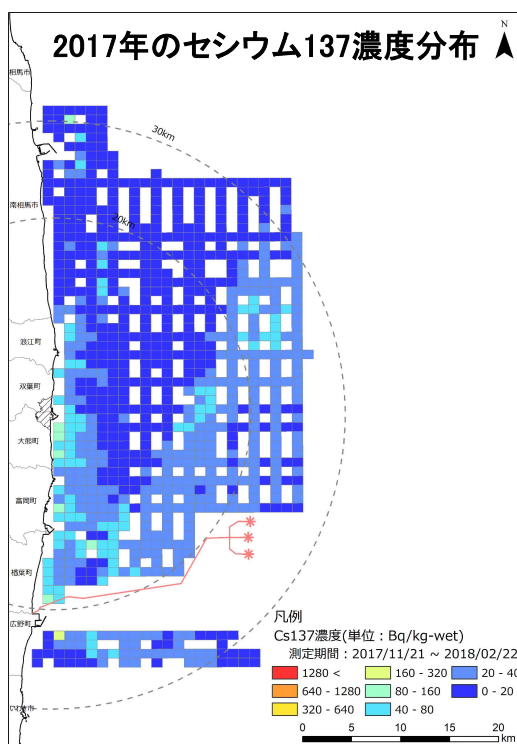
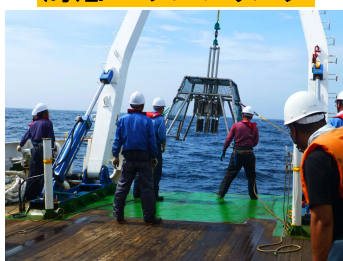
- ◆ 太田川水系と請戸川水系で観測された溶存態セシウム137濃度は、1 Bq/Lを十分に下回っている
- ◆ セシウム137の物理的な半減期（約30年）よりもかなり速い速度で減少している

## 海底土中のセシウム137濃度の空間分布

### 曳航式モニタリング



### 海底土サンプリング



- ◆ 原子力規制庁が実施した曳航式モニタリング※と海底土サンプリングで得られたデータを解析し、海底土表層のセシウム137濃度マップを作成した
- ◆ 広範囲の海底においてセシウム137濃度は事故前の濃度レベル（～8 Bq/kg）に戻つつある

※ 曳航式モニタリング：ゴムホースに内装したガンマ線スペクトロメータにより、海底土表層の放射性セシウム濃度を直接測定する手法

本成果は、原子力規制庁委託事業「平成31年度放射性物質測定調査委託費（福島県沿岸海域等における放射性物質等の状況調査）事業」で得られたものです